

シリーズ

精神
障害

そこに働く神の愛をめぐって

小池文彦

こいけ ふみひこ

共同作業所ホサナショップ所長補佐
社会福祉士、精神保健福祉士

日本では精神障害のある人はここ数年増加しており、『平成29年版障害者白書』では約392万人とされています。精神障害はどんな人でもなりうる病気ですが、症状が目に見えにくいので周囲から理解されにくく、社会の偏見も根強くあります。そんな障害を抱える人たちを教会、信徒はどう受け止めていったらいいのでしょうか。今号では精神障害者の作業所で働くクリスチャンが、精神障害のある人たちをとおして教会が地域社会で生かされる可能性について語ります。

(クリスチャン精神科医によるこの記事へのレスポンスを次号に掲載予定)

教会共同体を社会資源へ

—地域の作業所からの提言

筆者（中央）とホサナショップのスタッフ



教会との互助的な関わり

共同作業所ホサナショップは、現理事長の泉田昭が東京の練馬バプテスト教会の主任牧師をしていたとき、教会員の1人が精神障害を持つ息子のために立ち上げた精神障害者作業所です。息子にキリスト教主義の精神障害者作業所に通わせたいとの思いからであり、教会の協力を得て1993年4月に設立されました。泉田牧師の呼びかけで、日本バプテスト教会連合、日本同盟基督教団、日本神の教会連盟など、練馬区内の7教会が協力教会として運営委員会に加わりました。

現在、ホサナショップは福祉の枠に捉われず、新しいサービスを打ち出すなどして社会福祉業界発の総合商社を目指しています。主なサービスは地域にある教会・高齢者施設・マンションの清掃作業やオリジナル食品作り（ジャム、焼肉のたれ、食べるラー油、クッキー）、食品や衣類、化粧品などの販売作業です。販売取扱品目は問屋から仕入れた激安お菓子やメーカー製造のピザなどの冷凍食品、激安衣料（靴下50円）、せつけんなど幅広く取り扱っています。

私を含めて常勤スタッフが3名、非常勤

スタッフ3名に、40名余りの利用者が在籍しています。毎日は礼拝から始まり、目的である就労継続支援は、キリスト教カウンセリングを基盤としています。障害があっても地域の中でその人個人が自分らしく生活できるように、個人の自己決定を重んじつつ、自立した生活の実現に向けた支援を行っています。

協力教会からは月1回ホサナショップで行っている礼拝（ロングチャペル）にメッセージ奉仕をする牧師を派遣してもらっています。そこで語られる多くの御言葉によってキリスト教に興味を持ち、そこから礼拝出席へとつながり、受洗まで導かれた利用者もいます。協力教会からホサナショップオリジナル商品の注文がまとめて入るときもあり、バザーなどにも出店させてもらったり、教会清掃業務を請け負わせてもらったりしています。

一方で、ホサナショップ利用者として活動したいという人を牧師から紹介されれば、受け入れています。また、牧師、教会からの相談も受けています。精神障害のある教会員への接し方、教会員に精神障害への理解を求めるための啓発活動、社会資源などを含めた支援方法についての相談業務です。

さらに、教会から障害福祉サービス事業所を始めたいといった相談を受けることもあります。要請があれば教会に連なる障害者への理解促進のために外部で講演することもあります。協力教会の教会員として信仰生活を送っているホサナショップ利用者もいて、いろいろな面で協力教会とホサナショップは相互的な協力関係にあります。

精神障害との関わり

私が精神障害に関心を持ったのは、中学校時代の同級生がきっかけでした。精神障害のあるその彼は勉強はできませんでした。他者とのコミュニケーションに難があり、級友から疎外されるようになりました。私はその姿を不憫に思い、彼と行動を共にするようになりました。そして、彼の価値観や物の見方が他の人と異なり、独自の世界観を築き上げていることに気づきました。もともと精神障害のある人を知りたい、障害で苦しんでいる人と共に考え歩んでいきたいと思うようになりました。

これはまさにイエス・キリストによる導きだと思っています。イエス・キリストは常に苦しむ人の傍らにいてくださいま



練馬バプテスト教会の清掃をする
ホサナショップの利用者

す。そして私もまたイエス・キリストをとおして救われました。この命を神さまのため、人のために役立てたい、いつか天の御国に帰ったときに神さまに褒めてもらいたい、そんな思いが精神保健福祉へ歩む契機となりました。福祉を学んだ大学を卒業後、ホサナショップに就職し、今に至ります。

私が利用者との関わりの中で特に大切にしていることは、コミュニケーションの取り方です。話し方にも注意が必要です。話の意図を文脈で理解することが苦手な利用者が多いので、話の一部分や一単語のみを捉えてしまい、それによって気分を害してしまったり、深く悩んだり傷ついたりする

ことがよくあるからです。

私が失敗から学び、さらに注意を払うようになったのは利用者の価値観です。以前ある利用者が「自分は今退院しているが、最後は以前入院していた精神科病院に戻りたい」と言うのを聞き、私は「せっかく長い入院期間を経て地域社会に出てきたのに、また入院を希望するのはもったいないですよ」と励ますつもりで言いました。一般的には、精神科病院に入院したことのある人の大半は再入院したくないと言っているからです。しかし、その利用者は「あなたは何にもわかっていない。障害を持っている私が地域で生活するのがどれだけ大変なことか。今だって、自分で家事をするのが億劫なんだ」と返してきました。

私は諦めずに「地域で生活していけるようにいろいろな制度も今はありますよ」とアドバイスしましたが、その人は「もう腹は決めている」と言い残して、ホサナショップから去っていきました。今となっては、どうして彼の気持ちになれなかったのか、その希望を受容できなかったのか、なぜ語られた言葉の背景を読めなかったのかと反省しきりです。自分の価値観や自分の物差しで利用者を見ていた証拠です。

実はこのような物差しで人を見てしまうことは、教会でもあります。礼拝を捧げて心身ともに清められた状態のときに精神障害などで困った人を目の当たりすると、いい人でありたいという心理になりがちです。特に自分のようにクリスチャンかつ支援者である場合、よほど意識しないとメサイヤコンプレックス(救世主妄想)に陥ってしまうことを先の失敗から私は学んだのでした。

地域のコミュニティーとして

ホサナショップは7つの協力教会に限らず、いろいろな教会とつながりを持っています。教会が精神障害のある人たちにとってもコミュニティーとなっているかという点、一部の教会はなっていると思いますが、そうではない教会もまだまだあるというのが実感です。大きな要因の一つは牧師および信徒の精神障害に対する理解度の低さです。そのために生じたと思われる3つの例を挙げてみましょう。

ある人は精神障害があることが教会で知られるようになった途端、牧師や信徒たちから距離を置かれたと言います。まるで別世界から来た人への対応のように変わって



オリジナル商品のジャムの検品をする
筆者(中央)と利用者たち

いくのが手に取るようにわかり、教会だけでなくキリスト教にもひどく失望し、教会に行かなくなってしまうそうです。

精神障害のある別の人は自身に関する出来事のひとつひとつを強迫的に確認しなければならぬ性質で、牧師に頻繁に相談に行っていました。その様子を他の信徒たちが快く思わず、ある日1人の信徒から牧師の牧会を阻害する行為だと非難され、叱責しっせきされたというのです。その人は教会から足が遠のきました。

また、ある精神障害のある人が付属幼稚

園のある教会の礼拝に行ったら、牧師や信徒から幼稚園には近づかないようにとたしなめられたということでした。

いずれも精神障害のある人に対する「何をしでかすかわからない」といった負のイメージからの言動でしょう。このような誤解が精神障害のある人に対する偏見を助長し、教会が地域にあって真のコミュニティになることを妨げていると言えるでしょう。

それでは教会の取り組みとして、何ができるでしょうか。まずは精神障害について学ぶことです。その上で、教会がどのようなスタンスで、どこまで精神障害のある人を受け入れていけるのか、教会員はどのように接すればよいのかということを検討することは、各教会員や教会全体にとって有益なことだと思います。精神障害のある人にとっても喜びでしょう。

また教会としての取り組みもさることながら、各個教会にはできることに限りがあるので、地域の教派を超えての連携を構築することも大切な働きだと思います。キリスト教だけにこだわるのではなく、ある人には仏教の教えがよい場合もあるかもしれません。障害のあるその人に最善なもの

身近になれば他から取り入れる柔軟な姿勢が、その人のためになるかもしれないことにも留意したいものです。

地域で共同して精神障害者福祉を考えることはとても重要です。なぜなら教会も障害のある人の(障害がない人にとってもですが)社会資源になるからです。このような社会資源の創出こそがコミュニティの始まりだと思えます。そうして形成されたコミュニティの一部分を教会は担う必要があると思えます。教会は全ての人に開かれている場所なのです。

教会が今一度隣人を覚え、隣人のために行動を起こすことができれば、地域社会によい変化をもたらすのではないのでしょうか。そんな有り様を神さまは望んでいると思います。教会がどのように精神障害のある人を受け入れ、どのように関係性を築いていくかということでお悩みの方はぜひご相談いただければと思います。共に考えていきましょう。

●このシリーズに関する感想、ご意見を編集部まで「シリーズ精神障害」係」と明記の上、郵送かファクスかメール(shinto@bp.ucc.jp)でお寄せください(匿名可)。個人が特定されないかたで、誌面で紹介させていただく場合があります。電話での対応はいたしかねますので、ご了承ください。